

教育プログラムの概要及び採教育択理由

機 関 名	北海道教育大学	申請分野(系)	人社系
教育プログラムの名称	現職教員の高度実践構想力開発プログラム		
主たる研究科・専攻名	教育学研究科学校臨床心理専攻		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取 組 実 施 担 当 者	(代表者)後藤 守		

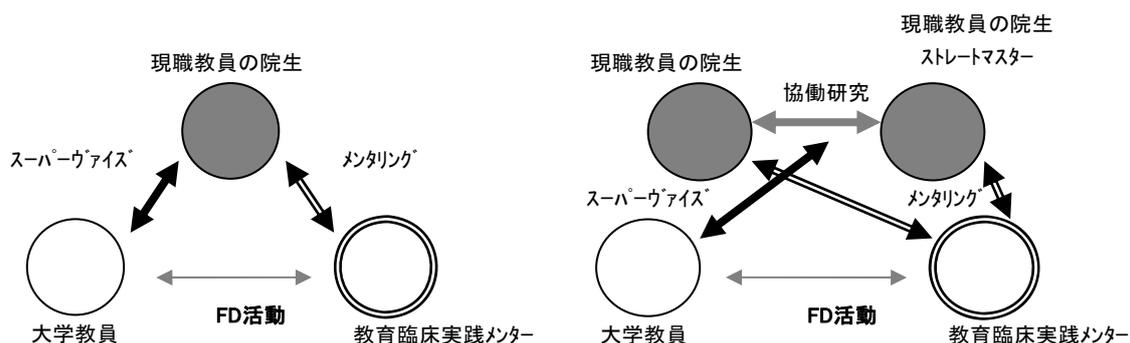
[教育プログラムの概要]

1 目的

現職教員の人間発達援助に関する深い学術的教養と、それを具体的・臨床的事例に応用するための高度な実践構想力の育成は、教育系大学院教育における焦眉の課題である。本プログラムの目的は、①教育・心理・福祉等の領域横断的なりサーチベースの協働研究、②地域の人材資源の登用によるコミュニティベースの協働研究、③研究的実践者と実践的研究者との臨床的事例研究をベースにした協働研究、という3つのスコープを機軸として、臨床的事例にもとづくケースメソッド、理論知を再構築・脱構築するためのフォーラムメソッドと、両者の統合カリキュラムによる高度な実践構想力の涵養を図ることにある。

2 特徴

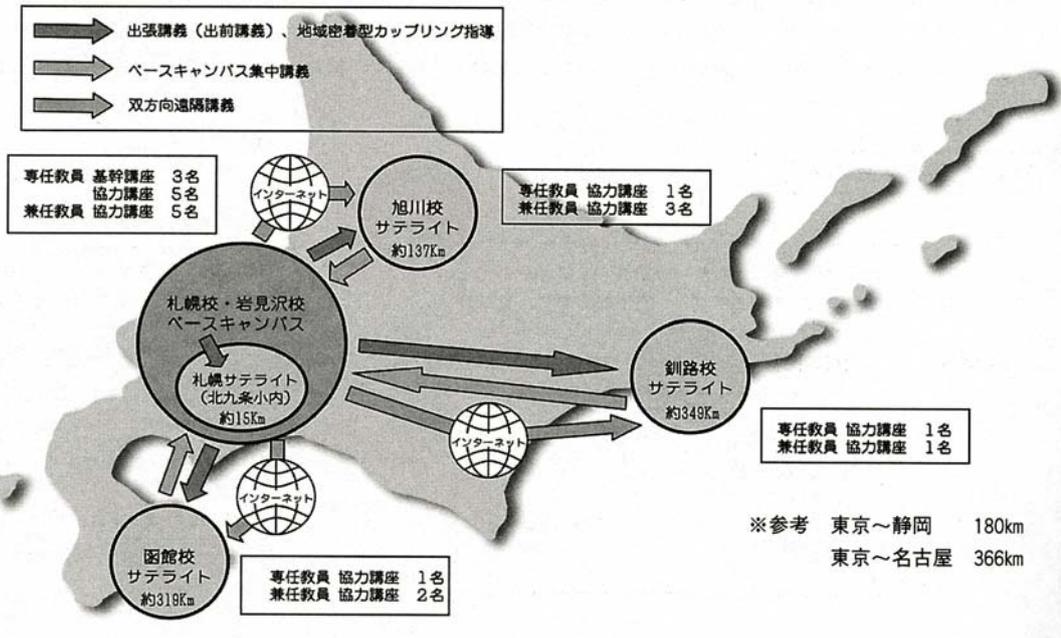
- (1) 研究的実践者を「教育臨床実践メンター」として登用し、現職教員である院生の教育実践支援を、定期的なメンタリングにより支援する。
- (2) 実践的研究者である大学教員が院生の勤務校を訪問し研究指導する「勤務校訪問型スーパーヴァイズ」を行い、実践における研究主題の掘り起こしと研究の遂行を支援する。
- (3) 研究論文作成を5期に分け、大学教員、教育臨床実践メンターが緊密な連携をとって支援体制を組む。
- (4) (1)と(2)を教育プログラムの両輪として機能させるために、教育臨床実践メンターと大学教員が協働してFD活動を展開する。
- (5) それぞれの院生の実践知が豊かに交流し合うために、院生同士の協働研究を支援する。これは、院生の自立的な研究遂行能力やプロジェクトの企画・マネージメント能力を高めることに結びつく。
- (6) 教育プログラムの成果を情報メディアにより積極的に発信し、大学院全体の教育の実質化に寄与する。



北海道教育大学：現職教員の高度実践構想力開発プログラム

履修プロセスの概念図（履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。）

1 5つの修学場所を結んだ教育研究



2 履修指導及び研究指導のプロセス

1 年 目			2 年 目		
研究主題醸成期	研究主題再考・確定期	研究始動期	研究展開期		研究終結期
4月～7月	8月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～10月	11月～2月
特論・専門演習		特論・専門演習		特論・専門演習	
	学校カウンセリング実地研究				
	地域人材の登用 地域資源の活用		修了生の登用		
	特別支援教育コーディネーター特論		特別支援教育コーディネーター実践演習		
臨床心理基礎実習		臨床心理基礎実習		臨床心理実習	
研究指導(複数体制) 実践知の普遍化	個別・集団指導	勤務校訪問型スーパーヴァイズ		課題研究	
			院生協働研究	大学院札幌サテライト 実践知の相互共有	修了後の 教育研究支援
教育実践支援 実践の省察と 新たな実践の創造	教育臨床実践メンターの登用				
オリエンテーション①				オリエンテーション②	
教育情報システム活用		論文審査会 (オプショナル参加)		第1・2回 論文検討会	・査読審査 ・発表審査会 (最終試験)
	第1・2回論文検討会 (オプショナル参加)			論文題目提出	
	研究計画書作成				

<採択理由>

大学院教育の実質化の面では、問題が多い学校臨床に対応して行こうとする社会のニーズに対応し、「高度な実践構想力の涵養」を図るという人材養成目的が掲げられている。学校現場で問題となっている、派遣されたカウンセラーと現職教員との齟齬を解消する手段として、現場の教員を対象に、臨床心理士、学校心理士、臨床発達心理士などの幅広い資格取得を視野に入れた教育体系が整備されている点は評価できる。

教育プログラムについては、北海道という広域性に対応し、4つのサテライト校を結んだ教育体制が整備されており、現職教員である大学院生に対する実践的指導という側面から、「教育臨床実践メンター」、「勤務校訪問型スーパーヴァイズ」などの取組が提案されている点は評価できるが、教育プログラムの展開に向けて、「高度な実践構想力」の内容をより明確にした上で、計画の更なる工夫が望まれる。